

「私の第一声②7」

【年末の大掃除】

私の小・中学生時代、昭和 50 年代の泉北ニュータウンでも、近所の多くの家では、年末に家族で大掃除をしていました。うちでの私の分担は、毎年、家のすべての窓ふきと、照明のホコリぬぐいでした。私限定の役割なので、誰も手伝ってくれませんが、それだけを 12 月中に終わればよいのです。

12 月に入る頃、母に「そろそろ始めたら？」と言われてますが「冬休みになったら時間あるし」と先延ばし、12 月 24 日に冬休みが始まってもまだ大丈夫と逃げ続けて、結局、大晦日の昼過ぎ、怒られてから開始です。うちの窓ふきは決まった方式があり、まず外の水道蛇口にゴムホースを差し込み、ドラムに巻いてあるホースを伸ばし、家の外から窓に水を浴びせます。ホースの先を指でつまむと、水流が細くなり遠くまで届きます。十分窓を濡らしたら、家に入り、窓ふき用洗剤を薄めた水につけて絞った雑巾で、外面・内面を磨きます。窓 1 枚磨いたら乾いた別の雑巾で乾拭きして仕上げます。日が暮れてくるととても寒く、手が凍えます。ようやく終わっても、照明のホコリぬぐいが待っています。家族が楽しくコタツで紅白歌合戦を見ているのを横目に、蛍光灯や白熱灯が割れないように慎重にガラスのフードを外して水拭きして回ります。すべてが終わるころには、紅白も終わりに近づいています。1 人で年越しそばをすすりながら、来年こそは 12 月に入ったら、大掃除を始めようと誓うのでした。

【お正月の遊び】

昭和 50 年代初めの低学年までは、福笑いや羽根つきなどもしていた覚えがありますが、中学年以上になると、コマ回し、凧揚げ、特に「べったん」に夢中になっていました。

〈凧揚げ〉 私の小学生時代、お正月の凧揚げの風習は廃れつつありましたが、学校の図画工作の時間に、青色のごみ袋と竹ひごで凧をつくって、冬の校庭で楽しく揚げた思い出があります。そんな時、突如「ゲイラカイト」ブームがやってきました。NASA（アメリカ航空宇宙局）の技術者が設計したとの触れ込みで、白や黄色のビニール製の、

血走った大きな目が特徴的なデザインの凧でした。紙製の和だこに比べて素早く簡単に揚がるので、校庭や近所の公園に多くの子が集まり遊んでいました。混雑のあまり、すぐ隣の人と糸が絡まって、グルグル回って落ちてきます。解くのが大変ですが、絡まった糸を切って繋ぎなおして対応します。混雑を避けて狭いところで揚げると、木などに引っかかり凧そのものを失います。電線に引っかかると「感電する！」「停電になる！」とめちゃくちゃ怒られ「自分で何とかしようと思わず、“関西電気保安協会（コマーシャルで有名！）”に電話しろ」と言われており、これだけは気をつけていました。

〈べったん（メンコ）〉 名刺くらいの大きさと 2 mm くらいの厚紙の片面にカラー写真などの絵柄、もう片面に一色刷りのイラストなどが印刷されたカードを「べったん」と呼び、仲間内で取り合って遊びます。野球選手やウルトラマンなどいろいろな写真があり、レアなカードはコレクションとしても人気でした。遊び方はいろいろありましたが、私たちの方法を紹介します。参加者が 1 枚ずつ自分のべったんをバラバラに地面に置きます。じゃんけんで順番を決め、自分の番がきたら、地面のべったんのうち自分の欲しいべったんの横に、地面に置いたのとは別の手持ちのべったんを叩きつけます。風圧で狙ったべったんがひっくり返れば、それは自分のものになり、さらにもう一度チャレンジできます。ひっくり返らなければ、今、叩きつけたべったんを回収し、次の人に順番が回ります。最初に置いた人数分のべったんがなくなるまで続けます。この遊び方は 1 度の遊びで取られるべったんが各自 1 枚のみなので、リーズナブルで人気でした。分厚くて重いべったんが有利だと、セロハンテープを巻いたり、口ウを染み込ませたりして補強していました。叩きつけたべったんをそのまま残して続ける、リスクの高い遊び方もあり、よい戦力になるべったんをとられたときはショックでした。もめごとになることもありましたが、年上の子が仲裁役をしてくれて、次の日までには何とか仲直りしてしていました。

【不定期コラムNo.41】へつづく

第三中学校ホームページ

では、子どもたちの様子やお知らせなど情報発信しています。ぜひご覧ください。これまでの不定期コラムも「校長室より」のコーナーでご覧いただけます。

<http://www.kaizuka.ed.jp/dai3-jh/>

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP